

フランスにおける日本語教育

2023年9月～2024年9月受入 コーワル カリナ

1. はじめに

フランスでは少なくとも1863年から日本語が教えられている。しかし、1863年から現在までフランスにおける日本語教育は大きく変化した。100年前、日本語授業は限られた知職人のために実施されていたが、今日ほどの社会環境の人々でも日本語を勉強することができる。本稿では、フランスにおける日本語教育について述べていきたいと思う。

2. フランスにおける日本語教育の歴史

フランスでの日本語教育はかなり古い。1863年にレオン・ド・ロニーという人類学者、民族学者、言語学者、日本学者がパリの東洋言語専門学校（現在フランス国立東洋言語文化学院・イナルコ大学）で最初の日本語授業を開講した。5年後の1868年にレオン・ド・ロニーは、同じ学校で正式な日本語講座を開講した。半世紀後、リオン商工会議所日本語入門講座とパリ大学文学部日本文明講座が開講された。当時、日本語授業に参加した人は非常に少なかった¹。

しかし、1970年代から日本語は徐々に人気が出た。なぜかという、フランス人は1970年代から日本の武芸に興味を持つようになったからだとすることである。続いて、1980年に漫画やアニメにも興味を持つようになった。その影響でフランス人が徐々に日本語を学びたいと思うようになり、フランスで日本語の学習者が徐々に増加した²。

その影響で、先ず、パリ及びパリの近郊の高校とリヨン第3大学で日本語教育が始まった。同時期に、高校卒業試験いわゆるバカロレアで日本語を第一、第二、第三外国語として選択できるようになった。1984年に日本語・日本文化中等上級教員資格（アグレガシオン）が制定された。そして、1988年からパリで日本語は第一外国語、第二外国語として選択でき、初等教育段階で日本語教育が始まった。1998年に現職教師を対象とした准中等教育教員資格（カペス・レゼルベ）が制定された。それから、2005年にフランス日本語教員委員会が発足し、日本語教育の改善を目指した様々な活動が行われた。最後に2016年に中等教育教員資格カペス・エクステルヌが制定され、2017年から毎年カペス・レゼルベの教員は3名、アグレガシオンの教員は2010年から毎年1名いるという³。結果として、2021年にフランスでは日本語学習者数は2万9569人、教師数は930人になった⁴。

3. フランスでの現在の日本語教育

フランスではそれぞれの教育段階で日本語が勉強できる。これから全ての段階の特性を述べていく。

¹ 国際交流基(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

² 国際戦略関係研究所 (2022)、「フランスでは日本はまだ人気だ」、
<https://www.iris-france.org/164920-en-france-le-japon-conserve-une-large-audience/#:~:text=%C3%80%20partir%20des%20ann%C3%A9es%2060,pays%20impact%C3%A9%20par%20leur%20essor.>

³ 国際交流基金(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

⁴ 国際交流基金 (2022) <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2022/france.html>

3-1. 初等教育

初等教育ではやさしい日本語が教えられている。初等教育では、日本語はある国際学校機関の日本語部門で教えられている。日本語は在留の日本語母語話者に対して教えられ、授業と課外活動及び部活を通して教えられている。特別な場合に限って、第一外国語として小学校4年から日本語が勉強されている⁵。

3-2. 中等教育

先ず、中等教育では日本語は主に高校で勉強されている。高校で日本語は第二外国語か第三外国語として勉強されている。特別な場合に限って、日本語は中学校2年から学習される。第二外国語か第三外国語の場合、フランスでは日本語が学習できる学校は60校以上ある⁶。

次に日本語コースで勉強されている教材について述べていく。フランス国民教育省(2010：アネックス1、教材)は、日本語国際部を持つ高校は次の文学作品を勉強しなければならない。

現代文学

野坂昭如、『火垂るの墓』
中島敦、『山月記』
夏目漱石、『私の個人主義』
志賀直哉、『城崎にて』
川端康成、『伊豆の踊子』

古典文学

伊勢物語「東下り」
松尾芭蕉、『奥の細道』(始めと「夏草」)
兼好法師、『徒然草』

このように、高校からの日本語学習は、日本の文学に接するきっかけになる。

最後に、日本語国際部を持つ高校について述べていく。フランス国民教育省(2010：アネックス1)は、日本語国際部を持つ高校の目標を次のように述べている。

- ①日本語の長い文章を理解し、日本の文化の特徴を理解する。
- ②長く考えずに自発的で容易に日本語で発話する。
- ③複雑な内容についてはっきりとした仕組みのある文を作成し発話する。

目標は高校であっても高い日本語のレベルが求められていると明確に述べられている。

次に、各日本語能力を獲得するための目標について述べていく。

① 高校1年

第一に、フランス国民教育省(2010：アネックス1、高校1年)は、高校1年の目標を次のように述べている。

⁵ 国際交流基(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

⁶ 国際交流基(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

口頭理解 (リスニング)

- かなり長い内容を理解できる
- 共通語の映画を理解できる

文章理解度 (リーディング)

- 20世紀前半の偉大なテキストについて読解できる(小説というジャンル、社会と文学の進化)
- 日本語の文字の歴史を理解できる

漢字及び語彙学習 (ボキャブラリー)

- 漢字640字が書ける
- 常用漢字を認識できる

作文 (ライティング)

- 様々な内容に関して明確的な文章が書ける(テキストの要約、個人的な経験…)

会話 (スピーキング)

- 自分の視点を発話できる
- プレゼンテーションの構成を理解し作成できる(序論、内容、結論)

会話交流 (インタラクション)

- 自分の意見を発表したり、他の人の意見について会話したり、積極的に会話に参加できる。

このように、高校1年の到達目標であるが、かなり様々な能力が求められ、初めて日本語を勉強している生徒にとって努力しないといけないことがわかる。続いて、高校2年について述べていく。

② 高校2年

フランス国民教育省(2010 :アネックス1、高校2年)は、高校2年の目標を次のように述べている。

口頭理解 (リスニング)

- 高校1年の内容を更に勉強する

文章理解度 (リーディング)

- 現代の名作を勉強する(1950年～2000年)(日本の美学のエッセイ、日本文学の重要な段階)

漢字及び語彙学習 (ボキャブラリー)

- 漢字366字が書ける
- 常用漢字が理解できる

作文 (ライティング)

- 高校1年の内容を続ける

会話 (スピーキング)

- さまざまなプレゼンテーションを勉強する(客観的な情報の発表、個人的な経験の発表、一般的な思考の発展)

会話交流 (インタラクション)

- 高校1年の内容を続ける

今回高校1年の続きとして、高校1年の内容を更に深く勉強するか新しい内容が導入されている。最も注目すべきことは漢字のレベルである。高校2年で漢字1006字を読めるようになるのは驚くべきことである。日本の小学校であったら、小学校6年までの漢字能力ということである。次に、高校3年について述べていく。

③ 高校3年

フランス国民教育省(2010 : アネックス1、高校3年)は、高校3年の目標を次のように述べている。

口頭理解 (リスニング)

- 構造が明確でなくても、長いスピーチを理解できる
- テレビ番組や映画を苦勞せずに理解できる

文章理解度 (リーディング)

- 文学的な文章を理解でき、書き方の違いを理解できる
- 文章の構造を理解できる
- 登場人物、状況や感情の書き方を評価できる

漢字及び語彙学習 (ボキャブラリー)

- 日本の小学校の常用漢字を書けて読める(1006字)

作文 (ライティング)

- ある内容を明確に紹介しその内容について発話できる
- 自分の意見を明確的に表わせる

会話 (スピーキング)

- 状況により適切な書き方を選んで書ける
- 自分の意見を明確的に表すために必要なポイントを文章に整理し表わせる

会話交流 (インタラクション)

- 自分の意見を適切に表し、相手の言うことによって発話できる
- 状況により話し方を変えられる(相手が友達、先生、目上…)
- 相手の思考により発話できる

このように、3年間を通して、日本語国際部のフランス人学習者は日本語母語話者の小学6年生と同じ言語レベルを身に付けるということがわかる。

3-3. 高等教育

フランスでは日本語を大学から博士課程まで学習できる大学が8校ある。その大学はフランス国立東洋言語文化学院(イナルコ大学)、ボルドー・モンテーニュ大学、リヨン第3大学、パリ大学、ストラスブール大学、リール大学、エクス・マルセイユ大学、トゥールーズ大学である。また、日本語はある専門学校及び大学で選択科目として学習されている。

先ほど述べた大学の中で、イナルコ大学は学生数、教師数だけでなく、卒業生数でもヨーロッパの最大規模なので、その大学について述べていく。

まず、デロワ中村(2020)によると、現在イナルコ大学では、日本語学部課程登録者は800名で、(1学年400、2学年250、3学年150)、修士課程登録者100名いる。教員は約50名いるということである。

次に、イナルコ大学の日本語学部の教育段階について述べていく。

① 大学1年

第一に、イナルコ大学(2021 : 24-25)は大学1年で次のように日本語を勉強すると述べている。

文法 : 基礎日本語文法(初級)

漢字 : ひらがな、かたかなと漢字360字の勉強

文法練習：文法講義で勉強したことについて練習を行う
会話：会話能力を習得する授業
作文：文法練習に基づいて作文練習を行う
歴史：日本の歴史についての授業(古代日本と現代日本)

イナルコ大学の1年はある程度、高校1年の到達目標と似ている。その理由は言うまでもなく、授業が日本語初心者向けだからである。しかし、講義には学習者が多いため、集中しなければならないということである。次に、大学2年の授業について述べていく。

② 大学2年

イナルコ大学(2021：25-28)は大学2年で次のように日本語を勉強すると述べている。

大学1年の続きを行う。

文法：中級レベル

漢字：1年+2年：～700字

古代日本コースを導入する：古典文学、日本思想、古典美学史、日本の音楽、考古学、日本の演劇(前期)；近代及び現代文学、日本の映画、近代美学史、日本の政治、日本の経済、日本の大衆文化、日本の宗教(後期)

大学2年はかなり難しいと言われている。しかし、古代日本コースの導入で学習者は言語や歴史以外、様々な日本の文化を勉強するようになり、より深く学習するようになる。次に、大学3年について述べていく。

③ 大学3年

イナルコ大学(2021：28-33)は大学3年で次のように日本語を勉強すると述べている。

大学2年の続きを行う。

文法：中級・上級レベル

漢字：1年+2年+3年：～1000字

日本の歴史の授業は終了

新しい授業：翻訳(日本語からフランス語、フランス語から日本語)

義務専門コースを導入する(古代日本コースは終了)：歴史、美学と文学、翻訳と古代日本。

大学3年で歴史の授業が終了するため、学習者は専門的な授業に入る余裕があるということである。大学を終了したら学習者は日本語能力試験N2のレベルを持ち、日本語母語話者の小学6年生と同じレベルである。

最後に、イナルコ大学の大学院修士課程日本語学部の教育段階について述べていく。まず、大学院1年について述べていく。

① 大学院1年

イナルコ大学(2023：21-34)は大学院1年で次のように日本語を勉強すると述べている。

大学の続きを行うが、授業は異なる
上級言語使用：作文、会話、敬語を中心とする
日本語専門コース(選択)：文学翻訳、社会科学、経済と社会
専門ゼミナール：歴史、社会と領域、言語学、文学と美学、日本語教育というコース4つがあり、コースの中に様々なゼミナールがある
修士論文の書き方

大学院のため、言語の授業が非常に減少する。それに加えて、イナルコ大学の大学院では修士論文を2つ執筆しなければならないため、ゼミナールと研究する時間は重要になる。次に、大学院2年について述べていく。

② 大学院2年

イナルコ大学(2023：47-58)は大学院2年で次のように日本語を勉強すると述べている。

上級言語使用の続き
日本語専用コースの続き
研究、職業、教育というコース3つから選択する必要がある
研究：修士論文を書く必要がある
職業：インターンシップをする必要がある
教育：修士論文とインターンシップをする必要がある
それぞれのコースに様々なゼミナールがある

大学院2年が修士課程の最後の段階であるため、専門的な授業が多いが、日本語上級レベルの授業が続くため、大学院を終了したら学習者は日本語能力試験N1のレベルを持つ。

3-4. 学校教育以外

語学学校ではなく、アソシエーションのような非営利活動で日本語を勉強することができる。その非営利活動は地方自治体あるいは大学との共同経営で行われる。パリ市では街の文化施設(図書館、メディアテックなど)でも日本語クラスが開講されている。また、国立遠隔教育センター(CNED)の通信教育で日本語を勉強することも可能である。その他は生涯教育としての日本語教育、ビジネスパーソンの語学学校、日仏家庭のための日本語補習塾という機関もある。そして、機関に属さず、個人教育や独学で学習する人もいる⁷。実際、本屋で日本語の教科書を購入する、あるいはインターネット(動画など)で日本語を学習することも可能である。

4. CEFR

CEFRは外国語の運用能力を評価できる指標として作用している。奥村三菜子、櫻井直子、鈴木裕子(2016)によると、CEFRは「言語教育に携わるすべての人たちが言語教育・言語学習を考える際に参照できるガイドライン」ということである。そのガイドラインは様々な段階に基づいて作られている。A1レベルからA2レベルまでは、小学校と中学校で学ばれている。B1レベルとB2レベルは高校で学ばれ、C1レベルとC2レベルは言語に興味を持つ人が大学か学校以外の機関で身につけるレベルである。

⁷ 国際交流基(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

1985年に高校での日本語教育が実施されていたとき、教師として選ばれた者は全員イナルコ大学とパリ大学の学生だった。しかしそのとき、イナルコ大学とパリ大学の教育は文法と翻訳を重視した。したがって、その学生は高校でも同じ日本語教育を行った。その結果、高校での日本語教育の質はあまりよくなかった。

そのため、2007年にCEFRの推薦と教師の協力で中等教育の日本語授業が改善された。日本語は文字が大切な言語であるため、フランス人に学ばせるのは挑戦だったが、まず、使用頻度が高い漢字235字から日本語を勉強することが決定された。重要な点は日本語を覚えることである。同時に強調された点は受動的行動と能動的な行動である。受動的な行動とは文章理解で、能動的な行動とは作文能力であるという。目的は受動的能力から能動的能力までの成長であり、能力の重要性に注目する。したがって、CEFRによってフランスにおける日本語能力が完全に改正された。このように、日本語はヨーロッパで教えられている他の言語と同じ位置を占めるようになった⁸。

5. 日本の援助

日本政府は様々な形で日本語学習者を支持している。本稿では奨学金、国際交流基金とJICAについて述べていく。

5-1. 奨学金

日本政府は、フランス人が日本へ勉強しに来るために、様々な奨学金を実施している。言うまでもなく奨学金は、ほとんど優等生のために実施されている。

① MEXT

MEXTは文部科学省の奨学金である。在仏日本国大使館(2024)によると、35歳未満の大学生と大学院生(修士と博士を含む)が応募でき、日本語能力試験N2の日本語能力が必要であるが、日本語能力試験の証明書は要求されていないとのことである。MEXTの特別な能力試験があり、スタディー・イン・ジャパンによると、合格すれば、一年間に大学生は毎月11万7000円を支給され、大学院生は14万円を支給されるということである。

② JASSO

JASSOも文部科学省の奨学金で優等生のための奨学金である。日本学生支援機構(2024)によると、日本語能力試験N2が要求されている。毎月8万円を支給されるとのことである。

③ アジア架け橋プロジェクト

AFSフランス(2024)によると、文部科学省の奨学金で、高校生2人が4か月間日本で勉強できるということである。

④ フランス財団

フランス財団は民間団体で、在仏日本国大使館(2024)によると、日本政府の援助で毎年大学院生が日本で勉強できるということである。

⁸ バザンテジャン(2015)、「フランスにおける日本語教育でのCEFRの利益」、fihal-02343396

このように、フランス人が日本政府の援助奨学金を受けるきっかけは様々であるといえる。

5-2. 国際交流基金

国際交流基金は総合的に日本で国際文化交流を実施する機関である。国際交流基金は日本語能力試験とパリ日本文化会館を運営している。まず、日本語能力試験は日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験である。1984年に国際交流基金と日本国際教育支援協会によって開始された。2011年には約62ヶ国で実施され、約61万人が受験した。年に2回実施され、フランスのパリ、リオン、ボルドー、ストラスブールの4会場で行われる⁹。次に、パリ文化会館は1997年に開館され、国際交流基金の海外における最大級の日本文化の発信拠点である。さまざまな日本文化に関する活動が紹介されている。例として茶道、書道、生け花、着物、日本料理、漫画が挙げられる。図書館があり、日本語の授業も行われる¹⁰。最後に、派遣について述べていく。2023年にパリ文化会館に日本語上級専門家、日本語専門家、日本語指導助手が3名いる¹¹。

5-3. JICA

JICA(独立行政法人国際協力機構)は開発途上国への国際協力を行う機関である。JICAウェブサイトによると、フランスのJICA事務所は国際機関(OECD等のような)との連携を強化し、JICAの様々な活動をフランス語圏の地域に知ってもらうために、広報事業を行っているということである。国際交流基金(2023)によると、2023年にフランスにおけるJICAからの派遣はなかった。

このように、奨学金によってフランス人は日本に行けるきっかけとなり、国際交流基金で日本語能力試験を通して、自分の日本語のレベルを計測することができる。それから、パリ文化会館は日本文化をパリで楽しめる場所になっている。JICAの場合は役割が異なるが他国と日本の連携を強化する機関である。

6. おわりに

以上、本レポートではフランスにおける日本語教育について述べた。

まず、フランスでは日本語教育の歴史がかなり古いということが明らかになった。そして、各教育段階においては、初等教育を除いて、日本語は中等教育でも高等教育でも言語のレベルはかなり高く、日本語能力試験のN2まで学習できることがわかった。さらに、大学院のレベルでは、N1まで学習できる。それに加えて、中等教育の場合、CEFRの介入で漢字の重要性が明らかになり、中等教育での日本語教育が改善された。最後に、フランス人に対する日本の各援助方法について述べた。その方法は奨学金、国際交流基金の試験とパリ文化会館とJICAであった。

このように、フランスにおいて日本語を学びたい人に対して学ぶ方法はたくさんあるということが明らかになった。

⁹ 国際交流基金(2012)、「主催者あいさつ」、<https://www.jlpt.jp/about/message.html>

¹⁰ パリ日本文化会館、「パリ日本文化会館とは」、<https://www.mcjp.fr/fr/la-mcjp/presentation>

¹¹ 国際交流基金(2023)<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf>

7. 参考文献

- デロワ中村弥生、「フランスにおける教育研究、勤務校の紹介」、国立東洋言語文化大学、2020年
奥村三菜子、櫻井直子、鈴木裕子、「日本語教師のためのCEFR」、くろしお出版、2016年
バザンテジャン、「フランスにおける日本語教育でのCEFRの利益」、現代言語、fhal-02343396、
2015年、(2024年7月14日閲覧)
- 国際交流基金(2023)、「フランス、2023年度」、
<https://www.ipf.go.jp/i/project/japanese/survey/area/country/2023/france.pdf> (2024年6月7日
閲覧)
- 国際交流基金(2022)、「フランス、2022年度」、
<https://www.ipf.go.jp/i/project/japanese/survey/area/country/2022/france.html> (2024年6月7日
閲覧)
- フランス国民教育省(2010)、「日本語、日本文学プログラム」、
<https://www.education.gouv.fr/bo/2010/27/mene1010853a.htm> (2024年6月16日閲覧)
- 国際戦略関係研究所(2022)、「フランスでは日本はまだ人気だ」、
<https://www.iris-france.org/164920-en-france-le-japon-conserve-une-large-audience/#:~:text=%C3%80%20partir%20des%20ann%C3%A9es%2060,pays%20impact%C3%A9%20par%20leur%20essor.> (2024年7月8日閲覧)
- 日仏高等学校ネットワークコリブリ、「日本語教育」、
<https://reseaucolibri-francejapon.org/la-langue-japonaise/?cn-reloaded=1> (2024年6月16日閲覧)
- 在仏日本国大使館(2024)、「教育、研修」、
https://www.fr.emb-japan.go.jp/itpr_fr/education.html (2024年6月25日閲覧)
- 日本学生支援機構(2024)、「海外留学支援制度(協定受入)」、
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship_j/ukeire.html、(2024年6月25日閲覧)
- Study in Japan、日本政府(文部科学省)奨学金、
<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/planning/scholarships/mext-scholarships/> (2024年6月26日閲覧)
- フランス財団、「日本語日本文化研究財団」、
<https://www.fondationdefrance.org/fr/annuaire-des-fondations/fondation-pour-l-etude-de-la-langue-et-de-la-civilisation-jap> (2024年6月25日閲覧)
- AFSフランス(2024)、「アジア架け橋2024プログラ」、
<https://afs.fr/2024/02/13/programme-au-japon-de-4-mois-grace-a-la-bourse-asia-kakehashi-2024/> (2024年6月25日閲覧)
- 国際交流基金(2012)、「主催者あいさつ」、<https://www.jlpt.jp/about/message.html>、(2024年6月26日閲覧)
- パリ日本文化会館、「パリ日本文化会館とは」、<https://www.mcip.fr/fr/la-mcip/presentation> (2024年6月26日閲覧)
- JICA、活動概要(フランス事務所)、
<https://www.jica.go.jp/Resource/france/office/about/outline.html>、(2024年6月26日閲覧)
- イナルコ大学(2021)、「日本語(大学)」、
https://www.inalco.fr/sites/default/files/asset/document/formation_japonais_licence_llcer_2021-2022_0.pdf (2024年7月2日閲覧)
- イナルコ大学(2024)、「日本語(大学院)」、
https://www.inalco.fr/sites/default/files/asset/document/brochure_mast._et._japonaises_23-24_20septembre.pdf (2024年7月2日閲覧)